

# 報 館 おおなだ



## 地域が支え合う

### しくみづくりに着手!!

#### 「地域包括ケアシステム」

とは、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けていけるようにと、厚生労働省主導で進められている取り組みです。少子高齢化の流れの中、社会保障の財源が減る一方、介護や医療を必要とする人は増えてきています。お金をかけず、地域ぐるみで支え合っていかなければならない、というわけで市町村が実情に合わせて整備を進めることが、定められました。包括といわれるとおり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を一体的に見るよう、求められています。

松本市は三十五地区それぞれ実情が違います。まずは三つのモデル地区（第二地区、四賀、岡田）が選ばれました。モデル事業推進にあたっては、地区の主な団体が組織されている岡田地区まちづくり委員会が中心になり、昨年からの地

区の保健福祉関係職員や役員・委員らが、現状や課題を確認する会議を持ち、さらに住民学習会も開いてきました。

こうした検討を重ね、これまでに、大柱として「顔の見える関係づくり」、中柱として

- (1) 町会・党つながり強化
- (2) 子どもを巻きこんだ活動
- (3) 学びあい・啓発・意識啓蒙

という指針が立てられました。

来年三月までに報告書を作る予定ですが、六月二十六日の会議では、おもに小柱となる活動内容がテーマになりました。岡田は町会ごとに人口も高齢化率も違い、抱えている課題も異なります。それぞれで多世代が地域に関わり、顔の見える関係を作っていく

れたらいい、という意見が多数出ました。

たとえば、働きざかりの多忙な人々が関われる方法は？ 岡田夏まつりで、若い世代がブースを出したらどうか？ PTAや保護者会で包括ケアを

学ぶ場を提供したらどうか？ 挨拶や、回覧板の手渡しを心がけたら、関係は生まれるのではないか？、などなのです。

地域の事業に子どもを巻き込むというのは、自ら考えるところの意味があるそうです。何ができるかを考えて、高齢者宅のゴミ出しを登校中に行った中学生の例などがあげられました。子どもに限らず、地域のこれからの、自分たちの問題としてとらえていくことが大事だと確認しました。

岡田は、これまでも地域ぐるみの支え合いを、進んで試みてきました。全町会に公民館もあって、場にも恵まれています。今ある資源やしくみを生かし、人的な資源が可視化できたら、可能性がもっと出てくるかもしれません。

まずは、町会単位で「ボランティアができる人の人材バンクや社会資源のリスト作り」に取りかかってみよう」となりました。人材（財）といっても、分野は多岐にわたりそうですね。この折に、自分ができること、得意なことを考えてみませんか。

今後も検討会や学習会が継続されます。ぜひ一緒に参加してみませんか？

(取材 中本)

## 第57回

# 全日本花いっぱい松本大会

### 岡田地区の民話紙芝居披露される

6月17日（土）、松本市民芸術館を主会場に、全国各地から関係者約1400名が参加した「全日本花いっぱい松本大会」が盛大に開催されました。

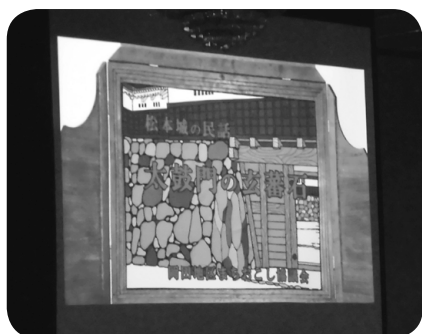
この紙芝居は「岡田地区まちおこし協議会」による紙芝居、「松本城の民話 太鼓門の玄蕃石」が大型スクリーンで上演されました。

花いっぱい運動は、松本市の小学校教員だった小松一三夢先生が花を通じて人々の気持ちが豊かになるようにとの願いを込め始めたもので、その運動は全国各地に広がっています。

上演終了後は参加者から大きな拍手が寄せられ、岡田地区に伝わる民話を、松本市民のみならず、全国から来た参加者に伝えることができました。

大会当日は記念式典、あがたの森公園での記念植樹のほか、交流レセプションがホテルブエナビスタにて行われました。

交流レセプションではアトラクションとして、「岡田地区



『松本城の民話 太鼓門の玄蕃石』上演中



精巧な切り絵の数々



塩倉の、松本市が一望できる高台に大きな建物があります。特別養護老人ホーム「岡田の里」とデイサービスセンター「ジョイフル岡田」です。私自身が、3年間介護してきた中で、一番大変だったのが風呂とトイレでした。しかし、デイサービスにお世話になってからは、私にも少しゆとりができましたし、おばあちゃんも行くのを楽しみにしてくれました。

**岡田ほっとニュース**

**ジョイフル岡田**

●塩倉●

なんととっても、設備の良いお風呂に入れるのが一番です。そして、仲間と触れ合い、好きなことをして、一日楽しく過ごしてきます。明るくて元気な介護士さんたちが、一生懸命お世話してくれるので、毎回笑顔で帰ってくるようになってきました。

そんな経験から、介護で悩んでいる人には、まずは見学や体験だけでも、お勧めしたいと思います。特に、毎年7月には夏祭りがあり、塩倉地区の子どもから大人まで、誰でも参加することができ、歌や踊り、屋台、花火など、楽しいひと時を過ごします。

◆相談員さんからひと言

ケアマネジャー、看護師、介護福祉士、栄養士などの専門スタッフが配置され、機能訓練や健康相談を行っています。要介護1以上の方は「お試し利用」も可能です。まずは、気楽にご相談下さい。

【連絡先】

☎0263・39・7611

(生活相談員まで)



(取材 大澤)

平安時代の岡田は水の豊かな加田(おかだ岡田の古称)の郷でありました。承和8年(841)のM6.5以上の地震で、水の豊かな加田から早魃の岡田に変わりました。前堂田川(女鳥羽川の古称)が堰き止められて流れて、東側に変わり、今の女鳥羽川の流れてになりました。この地震で信濃国府は泥水に埋まって壊滅し、貴重な平安以前の岡田の歴史資料が消滅してしまいました。山は崩れ、その爪痕は今でも伊深地区に残っています。以来、「岡田豊年よそ米喰わず」(岡田

「わが町再発見 完成!! 岡田地区」

松本市が平成22年度にスタートした「地区再発見発信事業」である、「わが町再発見 岡田地区」のDVDが完成しました。公民館活動や地域づくりに取り組む人々、史跡や地域文化などの記録です。制作は岡田公民館の「視聴覚委員会」(立澤牧男委員長)で、直接撮影或いは収録した動画や、貴重な写真記録を、20分

生活雑記

防災訓練に思う

岡田歴史研究会 野澤 重喜(松岡町会)

が豊作の年は、他地区では水害で米が取れない」という言い伝えがあるほど、昔から水不足に悩まされてきました。その後、寛政3年(1791)にM6.7の松本地震(家屋損壊495棟、伊松本市の防災訓練の現場と市役所本部を音声・映像で結ぶ非常通信に携わりましたが、その経験からは「普段の近所付き合いが命を守ります」でした。災害発生時に、自分と家族と近所の方々の生命の確保に、落ち着いて対処出来るよう、普段から防災訓練(近所付き合いも含めて)をしておきましょう。

ほどに編集したものです。岡田神社、若宮神社、岡田宿ダンボといった岡田の歴史や風物詩と、「岡田の今」である夏まつり、球技大会、新春サークル発表会などのイベント風景は、元気の岡田のエネルギーを伝えてくれます。さらに、先人たちから引き継いだ、田溝池、芥子坊主、財産区の事業のほか、福祉ひろばや地区の防災訓練などの生活風景もバランスよく収録されています。

視聴後に改めて感じたこと

(取材 村越)